

## 日本人口学会2021年度第1回東日本地域部会

2021年12月5日(日)の13時30分から、東日本地域部会が札幌市立大学サテライトキャンパスにおける対面とZoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催された。4時間の部会は2部構成にわけられ、前半は対面形式で参加した報告者による4つの自由論題報告があり、休憩を挟んで後半にはオンライン形式で5つの自由論題報告が行われた。

おそらく、ハイブリッド開催は人口学会としても初の試みであったと思うが、報告用PCとは別に札幌市立大学サテライトキャンパス会場内の様子や質疑を配信するためのカメラや高性能なマイクが準備され、対面とオンラインの有機的な連携が図られていた。社人研からは林副所長、井上基礎部研究員と菅が、10名ほどからなる対面会議の場に参加した。社人研からはこの他に5名が報告を行ったが、オンラインによる参加だった。オンライン参加の出席者総数は正確に把握していないが常時20～30名ほどの参加があったと思われる、活発な研究交流が行われた印象がある。

新型コロナウイルス感染症の猛威に対する世界的な取り組みとして、対面を避ける努力がはじまってからはや2年が過ぎようとしており、学会・研究会活動に対して導入された新技術の受容も進むと同時に、今回のハイブリッド会議のように新たな試みもなされている。学会会場に集散することに要する総費用とオンライン会議の便益を比較すれば、今後オンライン会議(併用)が廃止されることはないであろう。一方で、久しぶりに対面形式で開催された学会への参加を通じて、学会報告及び質疑応答のみならず、対面だからこそ可能な(個別)コミュニケーションから得る刺激(逆にオンラインのみの場合のミス・コミュニケーションやその可能性にともなう機会費用)には変えがたいものがあると感じた。依然として新しい生活様式への社会的移行には模索状態が続いているが、個人的には一日も早い正常化(制限の撤廃)を願う。

今回のハイブリッド形式による学会開催にご尽力くださった関係諸氏にこの場を借りて御礼申し上げます。なお、プログラムは日本人口学会のホームページ(「2021年度第1回東日本地域部会開催のお知らせ(第2報)」)に掲載されているため割愛する。(菅 桂太 記)

## 2021年国際人口会議

2021年12月5日(日)から10日(金)にかけて、国際人口学会(IUSSP)による、2021年国際人口会議(2021 International Population Conference)がオンライン開催され、筆者は慶應義塾大学石井太教授による口頭報告「日本における複合死因のネットワーク分析の応用」の共著者として、また「高齢者に対する世代間と社会的な支援」と題するセッションの座長として参加した。

国際人口会議は4年おきに世界各地で開催されているが、第29回となる今年の会議は、当初はインド・ハイデラバードでハイブリッド開催される予定であったが、長引く新型コロナウイルス感染症の蔓延により、完全オンラインとなった。オンラインの特徴を生かして、口頭報告は事前に録画することが推奨され、議論はライブでミーティング形式、つまり報告者、参加者はみなカメラ・マイクをオンにすることができる形式で行われた。世界各国からの参加者がそれぞれに都合の良い時間帯を選び、176のセッションが四六時中行われる、という時間設定であった。以前の対面形式の国際人口会議もセッションが多いため、すべてを把握することが難しかったが、今回は夜中のセッションは名実共に視聴不可能であった。オンラインであるが、報告者の参加料は400ユーロと高額で、聴講だけでも50ユーロであり、物理的に一堂に介するわけでもなく、すべてのセッションに参加できないことなど、今後の国際会議のあり方を考えさせられるものであった。(林 玲子 記)